

令和2年度人材育成研修会 症例検討会

①腎臓のはたらきから慢性腎不全患者の食事療法について

②症例検討（2症例）

講師 森川小児科アレルギー科クリニック 管理栄養士 武田 美由紀 氏
(宮城県栄養士会理事 栄養CS部 医療部長)

令和2年9月27日(日)宮城県栄養士会3階会議室において、人材育成研究会症例検討会を開催し、3名の方にご参加いただきました。参加者は熱心に耳を傾けられ、ディスカッションなどもあり和やかな雰囲気で行われました。

はじめに、腎臓の機能や慢性腎不全患者の食事療法について武田氏からご講義いただきました。

腎臓は1度悪くなると回復しないため、悪化させないためには“栄養”が大切であることや、生きる楽しみの1つである“食事”を美味しく食べ続けていくためには管理栄養士の栄養指導が重要となることを腎臓のはたらきから実際の食事療法まで詳細にご講義くださり、参加者は食事療法の大切さを再認識することができたのではないかと思います。

慢性腎不全の食事療法については、「たんぱく質を抑えながら、エネルギーをしっかりと摂る」ことが基本となり、そのような食事療法を継続していくためには低たんぱく質・高エネルギーの治療用特殊食品(でんぷん製品、中鎖脂肪酸(MCT)製品、低甘味ぶどう糖重合体製品)の利用が重要となることをお話しいただきました。また、治療用特殊食品を利用した美味しく食べる工夫など実際に食事のイメージを抱けるよう、具体的な料理をふまえたお話もいただきました。さらには、減塩食の必要性について、食塩摂取量と血圧の関係を踏まえたお



話しや「脱水防止」「低Na血症の防止」「薄味に慣れる」ために、減塩はNa排泄量に合わせ5日かけて1gずつ減らしていくなど、緩徐に行うことが重要であることを学ぶことができました。

次に、武田氏が栄養管理を行った慢性腎不全患者2症例について症例検討を行いました。1症例目は繰り返しの栄養指導で治療用特殊食品を利用した食事療法を継続でき、透析導入への期間を延ばすことができた方。2症例目は栄養指導を自己中断、数年後に再度栄養指導となったものの、食事療法を実践できず透析導入に至った方でした。経過は違うものの、患者自身が“何を大切にしているか”による違いであり、その人が幸せに日常生活を過ごしていくためにはその人の“人生を尊重する”ことの重要性を実感することができました。

参加者から「腎機能の基本的な働きから教えて頂き、大変勉強になりました。」などの意見があり有意義な時間を過ごしていただけたようでした。

(文責 西川祐未)